



中野小6年4組の皆さん



なかむらこはく
中村虎珀 議長



「音響信号機」や「青延長用押しボタン付き信号機」を増やしてほしい

《質問》 視覚障がい者の方にとって「音」はとても重要な役割を果たしています。視覚障がい者の方が音の出ない信号機の交差点を横断することを想像すると、とても心配です。音の出る「音響信号機」が増えれば、視覚障がい者の方が安心して出掛けられるのではと考えます。また、青信号の時間を延長することのできる「青延長用押しボタン付き信号機」があれば、障がいを持った方だけでなく、高齢者の方も安心して道路を横断できます。障がいのある方や高齢者の方が安心して安全な生活をするためには、必要な設備を増やしていくことは、誰にとっても暮らしやすい中野市の未来をつくる上で、とても大切だと考えます。

《答弁》 池田市長

皆さんが普段利用されている道路は、国道、県道、市町村道に区分され、信号機は、交通管理者の長野県公安委員会を設置し、管理しています。岡宮さんが言うように、視覚障がい者の方にとって「音」はとても重要な役割を果たしていることから、「音響信号機」は一般の信号機に比べ、大変効果的な信号機であると考えています。また、「青延長用押しボタン付き信号機」も、障がい者や高齢者の方に有効な信号機であると考えています。ご要望いただいた「音響信号機」や「青延長用押しボタン付き信号機」を増やすことについては、担当する長野県公安委員会へお伝えしていきます。



おかみやな
岡宮侑奈 議員



各路線に愛称をつけることを提案します。覚えやすい愛称をつけることで関心が高まり、利用促進につながると思います。公共交通機関の充実により、高齢者の方の運転免許返納が進めば、私たちの中野市は、もっと安全で暮らしやすくなると思います。

「ふれあいバス」の各路線に愛称をつけることは、とても良い考えだと思います。それぞれ地域の特色を表した路線の愛称について、今後考えてみたいと思います。「ふれあいバス」の増便や土日の運行についてはとても難しいですが、運行時刻や運行ルート、バス停の位置などの見直しはできます。利用している人や、地域の方の話を聴いて考えてみたいと思います。公共交通機関は、運営するためにもお金が掛かりますので、お客さんが少ないと運行を続けることが難しくなってしまうと思います。高野さんもご家族でお出掛けするときは、バスや電車を利用してみてください。



たかのゆい
高野結 議員



運転免許を返納する高齢者の方のために「ふれあいバス」をもっと便利で親しみやすいものにしてほしい

《質問》 「ふれあいバス」の1日の便数をもっと増やすこと、また、土曜・日曜も運行することを提案します。「ふれあいバス」がより便利になることで、運転免許を返納する方が増えると思うからです。しかし、利用者が増えなければ便数を増やすことは不可能です。そのためには、乗ってみたいと思ってもらえるように、さらに親しみやすくなる必要があると思います。そこで、各路線に愛称をつけることを提案します。覚えやすい愛称をつけることで関心が高まり、利用促進につながると思います。公共交通機関の充実により、高齢者の方の運転免許返納が進めば、私たちの中野市は、もっと安全で暮らしやすくなると思います。

《答弁》 池田市長

「ふれあいバス」の各路線に愛称をつけることは、とても良い考えだと思います。それぞれ地域の特色を表した路線の愛称について、今後考えてみたいと思います。「ふれあいバス」の増便や土日の運行についてはとても難しいですが、運行時刻や運行ルート、バス停の位置などの見直しはできます。利用している人や、地域の方の話を聴いて考えてみたいと思います。公共交通機関は、運営するためにもお金が掛かりますので、お客さんが少ないと運行を続けることが難しくなってしまうと思います。高野さんもご家族でお出掛けするときは、バスや電車を利用してみてください。

子ども議会を通して感じたこと

子ども議会

私の子ども議会の感想は、最初はものすごく緊張しました。本物の議場に座って、「すごいなあ」と心の中で思いました。舞佳さんと倫太郎君が、「テレビを新しく、大きなものに」と「ぼくたちの生活が少しでも快適になるためにエアコンを設置してほしい」の2つを質問したら、教育長さんがしっかりとわかりやすく説明をしてくれました。

小学校でこんなにいい経験ができて、本当に良かったと思います。本物の議場の議長席に座って、緊張感が持てたし、社会の勉強でもうすぐやる政治の勉強も、先取りできてよかったです。



江川 遥さん
(中野小6年1組)

身近にある中野市議会

議場の中はとても緊張感があり、議会が始まるとさらに緊張感が増しました。質問者が自分の意見を言うとき市長さんや教育長さんが質問者の意見を取り入れながら、中野市のためを考え、費用や時間、場所のことを、しっかりとわかりやすく答えてくれました。テレビで見たことがあるような、本物の議会が作りあげられていました。

子ども議会に参加し、議会がとても私たちの身近にあることがわかりました。そして私たちのために、中野市をよりよくするために考えてくれていることがわかり、感謝の気持ちを持って生活しようと思いました。



中山万葉さん
(中野小6年2組)

私たちの生活を、私たちが創ること

発表するときは、とても緊張したけれど、隣に友達のアキラさんがサンプルを持って、一緒に伝えようとしてくれていたので、とても心強く感じました。また、議員席に座ったときには、イスがふかふかで、本物の議員になった気分も味わえました。

私たちが考えた提案は4つありましたが、市長さんも同じ考えだとわかり、「中野市がもっと音楽に親しめる街になる！」とうれしくなりました。他の人の意見も聞きながら、私たちも、安心して生活できる中野市を創っていくために、これからも考え、伝えていくことが大切なんだなあと思いました。



関 美穂さん
(中野小6年3組)

市長さんに答えてもらってうれしかった子ども議会

普段は市政にあまり興味がありませんでしたが、今回をきっかけに身の回りの生活を今一度考えることができました。

実際に自宅近くのバス停からふれあいバスに乗り、運転手さんと楽しくお話ができました。

自分の意見が市政に反映される機会なので、とても光栄に思いました。演壇に立って質問をすると、とても緊張しました。市長さんが、私の質問に真剣にいていねいに答えて下さってとてもうれしかったです。

これからは、大好きな中野市のことにもっと関心をもっていきたいと思いました。



高野 結さん
(中野小6年4組)